

# リオ・パラリンピック報道資料

朝日新聞朝刊 2016.9月7日(水)

2016年(平成28年)9月7日 水曜日 朝日新聞



車椅子バスケットボールの大会で、大会運営を手伝う愛知医療学院短大の学生ら=名古屋市名東区



選手を抱きかかえて車椅子の乗り換えを手伝う戒田章さん(右)と川口東益さん(左)=名古屋市名東区

## 4年後のパラ 支える学生

### 愛知医療学院短大のサークル



4年後の東京パラリンピックなどを見据えて、愛知医療学院短大(愛知県清須市)のサークルで、障害者スポーツを支える若者を育てている。「障害者の暮らしを、より豊かにする手伝いをしてほしい」というのが目標だ。

▼1面参照  
「パラスポーツサークル

ル」を昨年立ち上げたのは鳥居昭久教授(53)。理学療法学IIだ。7日(日本時間8日早朝)に開幕するリオデジャネイロ・パラリンピックに、トレーナーとして日本選手団に同行する。指導しているサークルに、理学療法士や作業療法士を目指す学生計14人が所属。バドミントンや車椅子バスケットボール選手らのトレーニングを手伝う。

サークル発足時からのメンバーで2年の戒田章さん(20)と川口東益さん(19)は、名古屋市で8月にあつた車椅子バスケットボール大会の会場で選手を支援した。試合の合間、汗をかきづらい選手ら一人ひとりに霧吹きで水を吹きかけ、うちわで風を送った。体温調節を助けるためだ。

試合後には競技用車椅子を解体して車に積む。障害がある選手にとって大変な作業だ。大会に出場した愛知ツインBBC代表の橋保人さん(37)は「こうして手伝ってくれる人がいるか

練習・大会 手伝う人材育成

鳥居昭久教授(53)は、「理学療法学IIだ。7日(日本時間8日早朝)に開幕するリオデジャネイロ・パラリンピックに、トレーナーとして日本選手団に同行する。指導しているサークルに、理学療法士や作業療法士を目指す学生計14人が所属。バドミントンや車椅子バスケットボール選手らのトレーニングを手伝う。

鳥居教授は「片手を失った人に、『もう一方の手でスポーツをしましようか』と言えるような人材が育つ」と期待する。

障害者スポーツで支援にあたるのは選手の親や施設関係者が中心で、選手よりも年齢が高い人が多いという。鳥居教授は「もっと携わっててくれる若者が増えてくれたらいい。東京パラリンピックも、その先も活躍できる『ヒナ』を育てないといね」と話している。

(高岡佐也子)